

第 1 回 空港の津波対策検討委員会

議 事 概 要

1. 日 時：平成23年6月28日（火）13：00～15：00

2. 場 所：仙台空港ビル 3階会議室

3. 出席者：別紙のとおり

4. 議事概要

東日本大震災における仙台空港の被害・復旧状況、津波に対して求められる空港の機能と対策の方向性、想定すべき津波規模等について事務局から説明し、審議を行った。

委員からの主な意見は以下のとおり。

(1) 東日本大震災における仙台空港の被災状況について

- 今回の仙台空港での被害・復旧状況において、他の空港が被災した場合にも同様の状況になると考えられる事項と個別の空港によって状況が異なると考えられる事項を整理したうえで、空港の津波対策を検討すべきである。
- 復旧作業の中で何が問題であったか、防災・早期復旧の観点から不足していたこと、さらなる改善の余地があること等を整理しておくことが必要である。
- 今回の仙台空港での復旧対応の評価においては、事前の復旧計画が適切であったか、復旧計画に沿って対応する人員のスキルが十分であったかといった観点が重要である。
- 高潮で空港が浸水した例における被害・復旧対応の検証も行ってみてはどうか。

(2) 津波に対して求められる空港の機能と対策の方向性について

- 救命・救急活動の拠点機能の確保も検討してもらいたい。
- これまでは減災レベルの対策という考え方がなかったが今後考えていくべき内容である。
- 自治体としては周辺住民の避難場所としての空港の役割にも期待する。

(3) 空港の津波対策の方針策定における検討課題について

- 空港内のどこにいても、どの時間帯であっても避難場所へ行けるようにすることが重要である。
- 空港内には国の機関や様々な民間事業者が業務に従事しており、災害時には、これら関係者全体の情報共有が重要。
- 現場、個人が適切に行動できる状態にしておくことが重要である。
- 航空機の離陸避難については実施判断の考え方の整理が必要だが、様々な不確実要素があり、慎重に検討すべき。

(4) 津波の想定について

- 避難計画等のソフト面での対策では、最大規模の津波を想定しておくべきである。
- 想定する津波規模に加えて、対策に要する費用等が僅かの差でより十分な対策を講じることが出来る可能性も検討してもらいたい。

以上

第1回 空港の津波対策検討委員会 出席者名簿

役職名	氏名	所属等	出欠席
委員長	轟 朝幸	日本大学 理工学部 社会交通工学科 教授	出席
委員	越村 俊一	東北大学大学院 工学研究科 災害制御研究センター 准教授	欠席
委員	伊藤 毅	株式会社富士通総研 BCM 事業部 事業部長	出席
委員	佐藤 達也	仙台空港ビル株式会社 総務部長代理 兼総務グループ兼施設管理グループ担当課長	出席
委員	榎本 政美	全日本空輸株式会社 調査室 室長代理	出席
委員	佐野 圭	日本航空株式会社 オペレーションコントロール企画部 運航管理・統制企画グループ マネージャー	出席
委員	佐藤 敬	宮城県 土木部 技監兼次長（技術担当）	出席
委員	長谷川 浩	国土交通省 国土技術政策総合研究所 空港研究部 部長	出席
委員	渡邊 良	国土交通省 航空局 監理部 航空安全推進課 課長	欠席
委員	寺田 吉道	国土交通省 航空局 管制保安部 保安企画課 課長	出席
委員	池上 正春	国土交通省 航空局 空港部 計画課 課長	出席
委員	大坪 守	国土交通省 東京航空局 仙台空港事務所 空港長	出席
委員	千山 善幸	国土交通省 航空局 空港部 技術企画課 課長	出席